

働くお母さんの実像知りたい

社会に出る前に共働き家庭で子育て体験をする「インターンシップ」が、女子学生らの関心を集めている。仕事も家庭も完璧な女性の成功談ではなく、普通の働く女性の実像を知ることができるのが魅力。「将来のお手本になる」「自分の子育てに生かせそう」と評判は上々だ。

女子学生が家庭で「インターン」

午後6時、大学3年生の酒井くららさん(21)は、川崎市内の保育園に「お迎えに向かった。フルタイムで働く母親、高安千穂さん(24)に代わり、6歳と2歳の子どもたちを家まで送り届けた後、母親が帰ってくるまで面倒を見るのだ。」

普通の女性の体験

保育園の玄関に酒井さんの姿を見つけると、2人は飛び付くように駆け寄ってきた。帰り道は手をつなぎ、子どもの歩幅でゆっくり歩く。「ご飯は何かな」と話したり、虫を見つ



子どもたちの世話をする酒井くららさん(右)と鎌田明子さん 川崎市



子育てをしながら働く女性(左)から体験談を聞く女子学生たち 東京都世田谷区の昭和女子大



仕事と子育て 両立の手本に

さんたちと接して子どもたちが成長していくのが分かる」と満足そうだ。2010年からこの事業を主に手掛けている「スリール」(東京)の社長、堀江敦子さん(27)は「学生時代から先輩たちの働き方、生き方を見ることで、なりたい姿を思い描いてほしい」と話す。受け入れ家庭は利用料をスリールに支払い、学生は交通費のみ受け取る。利用料は主に学生の研修費用などに充てる。これまでに首都圏の大学生約100人が参加。うちの割合を女子学生が占めた。昭和女子大は昨春から、働く女性メンター(助言者)約300人を公募で集め、学生と面談する機会を設けている。同大の福沢恵子特命教授は「女子学生向けの職業教育という、功成り名を遂げたスーパーマンの話を聞く講演会が多いが、学生が求めているのは普通の女性の体験」と説明する。

企業にも危機感

能力を発揮しながら働き続ける将来像を社員が若いうちから持つことを、企業も重視し始めた。両立支援策の研修・講演事業をしている「ワーク・ライフバランス」(東京)によると、子育てしながら働く女性を講師とした若手社員向けの研修依頼が、今年になって増えてきたという。同社の小室淑恵社長が指摘する。

「仕事と子育てを両立する手本が少なければ、退職するか、能力を高める意欲を失ったまま働く社員が増えてしまう」と企業は危機感を強めている。